

【委員会名】研修委員会

【タイトル】「税を考える週間」会員大会

【日時】

平成18年11月13日(月) PM4:00~PM7:00

【場所】

亀戸天神社・参集殿

【演題】「ネット社会と税務」

【講師】江東東税務署 臼田 信夫署長

【概要】

臼田署長は、最近、税務署は「税務行政の電子化の推進」という施策から、納税者に対して e-Tax (国税電子申告・納税制度) の導入のお願いをしているところであるが、これは政府のIT戦略本部の「世界一便利で効率的な電子政府」の実現を目標として、国などの申請・届出等の手続きのオンライン利用率を早急に50%以上にする計画の一環であるとその背景について述べられた。

そして、IT技術がもたらしている社会の変化に触れ、瞬時に地球上を駆けめぐるインターネットの通信電波は、情報交換や相互の通信が国境や地域を越えて、地球の裏側にいる人とも隣の家に住む人とも何ら変わらぬ環境下でコミュニケーションがとれ、取引の国際化が急激に進んでいる最大の原因がネット社会の進展によるものであるという。

また、インターネットの普及によって、ネットオークションにより専業主婦でも所得税申告の必要性が生じた方が最近は増えているという。

そこで、政府の目指す電子申告社会の目的を次のとおり説明され、IT技術の積極的な活用により「世界最先端の電子政府」を構築し、国際競争力を強化するという政府の国家戦略の通称「e-Japan 戦略」を遂行するためのものであるという。

そして、臼田署長はIT先進国における税務申告状況とわが国の税務当局のIT技術の導入状況、税務のIT化を必要とさせる税務を取り巻く環境の変化、e-Taxの申告手続きの現状などを説明された後、e-Tax等によりわが国のIT社会の流れに順応した税務申告は、今後の信頼される税務行政に是非必要であると結んだ。



臼田 江東東税務署長



総勢 150名の参加者